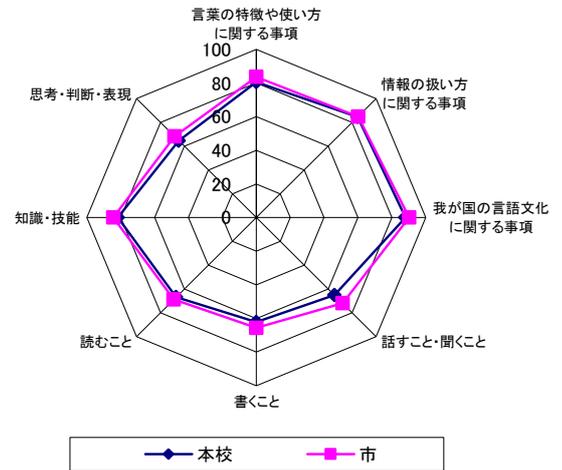


宇都宮市立宝木中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 80.6 | 83.6 | 80.3 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 84.6 | 85.0 | 78.9 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 88.0 | 90.2 | 84.2 |
| | 話すこと・聞くこと | 65.2 | 72.1 | 67.8 |
| | 書くこと | 62.1 | 65.5 | 51.8 |
| | 読むこと | 67.0 | 68.9 | 57.8 |
| 観点別 | 知識・技能 | 81.7 | 84.4 | 80.5 |
| | 思考・判断・表現 | 64.7 | 68.2 | 57.4 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



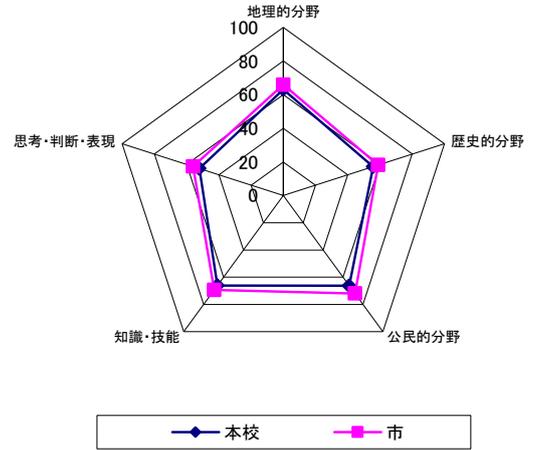
★指導の工夫と改善

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-----------------|--|---|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | <p>正答率は、市平均を3ポイント下回った。</p> <p>○類義語の問題については市平均を上回っている。</p> <p>○漢字の書きについては二つの設問で全国平均を0.7～3.1ポイント、故事成語については5.2ポイント上回っている。</p> <p>●漢字の読み、書き取りの正答率が市平均と比べて低く、市平均を8.5ポイント下回った設問があった。</p> | <p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・文法に関する事項については、中学3年の文法学習を行う際に中学1、2年の復習を行ったことが、市平均を越える一助になっていると考える。漢字の読み書き、文法・語句に関する事項のいずれにおいても、小学校での学習を含め既習事項を復習し、定着を図るためにAIDリルの利活用を増やすなど、繰り返し取り組むこと、個に応じた復習を行うことを系統的、継続的に行っていく。</p> |
| 情報の扱い方に関する事項 | <p>正答率は、市平均0.4ポイント下回った。</p> <p>○情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使っているという設問で、市平均を0.4ポイント下回っているが、昨年度よりは市平均との差が縮まった。</p> <p>●情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使っているという設問で無回答率が市平均よりも0.3ポイント高かった。</p> | <p>・情報同士の関係性についての理解が市と比べると身に付いていないことがうかがえる。情報の信頼性の確かめ方などの学習を通して、情報に関する自分の考えなどをまとめられるようになってきた。しかし、説明的文章などになると情報同士がどのように関わっているかを抑える力が不十分だと感じることがあるので、文章構成を抑え、段落の役割や段落ごとの関わりを理解できるような授業の工夫を行っていく。</p> |
| 我が国の言語文化に関する事項 | <p>正答率は、市平均を2.2ポイント下回った。</p> <p>○現代語訳を手掛かりに古典を読んでいるという問題では8割以上の正答率で、全国平均より高い。</p> <p>●内容としては中学2年までの学習内容で解答できる設問だが、市平均を下回っている。</p> | <p>・古典学習については、年間を通して行うことがなく、既習事項の定着が課題である。中学3年の古典学習を行う際に中学1、2年の復習を行ったことについては今後とも継続しつつ、より定着を図れるように年間を通して問題練習やAIDリルの利活用等を系統的かつ継続的に取り組んでいく。</p> |
| 話すこと・聞くこと | <p>正答率は、市平均を6.9ポイント下回った。</p> <p>○自分の考えを明確にし、論理の展開を考えているかという設問で市・全国平均を上回っている。</p> <p>●自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している、という設問では正答率が5割程度で、表現の工夫という面で課題がみられる。</p> | <p>・自分の考えを表す力は身に付いているが、それを上手く表現する力が身に付いていない。通年を通して、自分の考えを書く機会を多く設けていたため、考えを記すことに抵抗が減ったと考える。今後は、表現によって伝わり方がどう変化するかという点に重点を置き、継続的に取り組んでいく。</p> |
| 書くこと | <p>正答率は、市平均を3.4ポイント下回った。</p> <p>○自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している設問では一つだけ正答率が1.6ポイント上回っているものがあり、無回答率も市平均より低い結果となっている。</p> <p>●自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している設問では無回答が全国平均を下回るものが多かった。</p> | <p>・自分の考えを書く活動を充実させてきたことで苦手意識が低減してきたが、解答指示に合わないために正答と見なされない例が見られた。指定された条件のもとに読み取った内容や自分の考えを明確にし、目的や意図に応じた表現で書けるよう指導していく。また全体を通して、無回答が市と比較して2ポイントほど高い設問が多かったので、文章の書き始めを意識した指導を行っていく。</p> |
| 読むこと | <p>正答率は、市平均を1.9ポイント下回った。</p> <p>○説明的な文章の内容を読み取る設問で、市平均を2.1ポイント上回っている。</p> <p>●説明的な文章の読解で、論理の展開の仕方を捉えているかという設問では、市平均を6.2ポイント下回っている。</p> | <p>・説明的な文章についても、文学的な文章についても、内容を読み取ることについては、継続的な読書に関する学習活動により、理解度が高まっている。今後も文章を読んで考えを広げたり深めたりするために、グループ活動を適切に位置づけるなど、指導を充実させる。また、課題である論理展開については段落ごとの役割を理解できるように指導を行っていく。</p> |

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 地理的分野 | 63.1 | 66.0 | 57.8 |
| | 歴史的分野 | 55.8 | 58.9 | 51.4 |
| | 公民的分野 | 66.2 | 72.0 | 72.2 |
| 観点別 | 知識・技能 | 66.0 | 69.3 | 62.9 |
| | 思考・判断・表現 | 52.1 | 56.0 | 49.1 |
| | | | | |



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

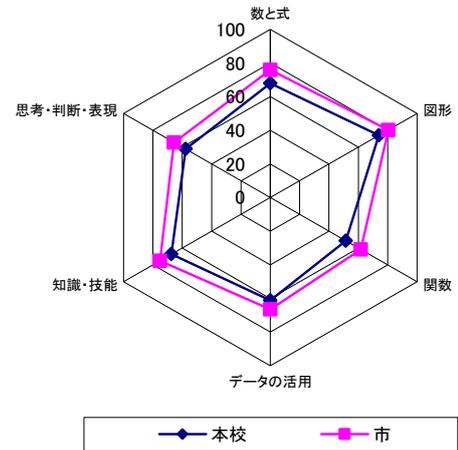
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|--|
| 地理的分野 | <p>正答率は、市平均を2.9ポイント下回った。</p> <p>○「日本の地域的特色と地域区分」の分野では5問中の4問の問題で市平均を上回っている。</p> <p>●記述式問題の正答率が低かった。</p> <p>●「世界の姿」と「日本の諸地域」の分野では、市平均を下回る設問が多い。</p> <p>●日本の農業の特色に関する設問の正答率が低く、資料をもとに考察し表現する力が身に付いていない。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 授業の初めに前時の復習をするとともに、定期的に小テストを実施し、基礎的基本的な知識の定着を図っていく。 統計資料から読みとれることをまとめたり、話し合ったり、発表したりする活動を通して、資料活用能力を高めていく。 記述式問題に抵抗感がみられることから、日頃の授業においても「資料から読み取れることは何か」を考えさせ、自分の言葉で表現させる活動を多く取り入れ、表現力を高めていく。 資料活用問題に数多くふれさせ、資料から何を読み取ればよいのかを推測することができるようにさせていく。 |
| 歴史的分野 | <p>正答率は、市平均を3.1ポイント下回った。</p> <p>○世紀の表し方についての理解に関する設問で市平均を上回っている。</p> <p>○「江戸時代」の分野では、対外関係に関する設問、「明治時代」の分野では、国会開設の勅諭と政党の関係に関する設問の正答率が市平均と比べて高い。</p> <p>●「古墳時代まで」の分野では、中国文明の発展と金印に関する設問で市平均を下回っており、正答率が低い。</p> <p>●公事方御定書についての考察に関する設問で正答率が低い。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 授業の初めに前時の復習をするとともに、定期的に小テストを実施し、基礎的基本的な知識の定着を図っていく。 歴史に関する様々な情報を効果的に活用して調べてまとめる活動を取り入れ、複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察していく力を高めていく。 記述式問題に抵抗感がみられることから、日頃の授業においても「資料から読み取れることは何か」を考えさせ、自分の言葉で表現させる活動を多く取り入れ、表現力を高めていく。 資料活用問題に数多くふれさせ、資料から何を読み取ればよいのかを推測することができるようにさせていく。 |
| 公民的分野 | <p>正答率は、市平均を5.8ポイント下回った。</p> <p>○記述式の解答では市平均を下回っているものの、その差は3.1ポイントであった。</p> <p>○公共の福祉について、資料の内容に着目して自分の言葉で表現する設問で、市平均を下回っているものの、その差は0.9ポイントであった。</p> <p>●「私たちの生活と現代社会」の分野では、特に、物事の採決の仕方に関する設問で、市平均より下回った。</p> <p>●「人間の尊重と日本国憲法」の分野では、特に、憲法改正の手続きに関する設問で、市平均より下回った。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 授業の初めに前時の復習をするとともに、定期的に小テストを実施し、基礎的基本的な知識の定着を図っていく。 現代社会の問題に目を向け、身近なこととして感じられるように、定期的に導入部分で身近な問題や最近のニュースの話題に触れる。 現代社会で議論されている問題を授業内で取り上げ、実際に考え話し合うことで、多面的・多角的に思考力を育成する。 |
| | | |

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 数と式 | 67.9 | 76.0 | 69.0 |
| | 図形 | 73.9 | 80.5 | 67.7 |
| | 関数 | 51.4 | 61.6 | 55.0 |
| | データの活用 | 61.1 | 66.5 | 56.4 |
| 観点別 | 知識・技能 | 67.4 | 75.1 | 69.4 |
| | 思考・判断・表現 | 57.7 | 65.6 | 47.1 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

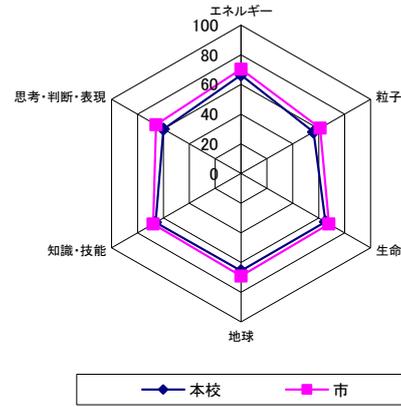
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|---|---|
| 数と式 | <p>正答率は、市平均を8.1ポイント下回った。</p> <p>○「正負の数の加法や負の数の乗法」の計算問題の正答率は、いずれも90%を超えた。</p> <p>●「乗法の公式を使って式を簡単にすること」についての設問の正答率は、市と比べて大きく下回った。</p> | <p>・「符号の決定」と「絶対値の計算」を切り離して考えることで、ケアレスミス無くしていくようにさせる。授業の中でも多くの練習問題に取り組ませる。</p> <p>・どの公式をいつ使うか判断できるように、もう一度公式をまとめる。①基本型②平方型③和と差の積型の再確認をさせる。また、必要によっては公式を図でイメージさせ、面積図の考え方を再確認させる。</p> |
| 図形 | <p>正答率は、市平均を6.6ポイント下回った。</p> <p>○「与えられた事柄から、正しい三角形の合同条件を判断すること」「平行移動された三角形について、正しい図形を選ぶこと」の設問の正答率は、約85%であった。</p> <p>●「与えられた事柄から、角が等しくなる根拠を判断する」設問の正答率は、市と比べて大きく下回った。</p> | <p>・図形の見た目に惑わされず、辺の長さや角度など分かっている情報を図に書き込むことで、合同条件が満たされているかを確認させる。</p> <p>・対頂角や共通な辺など、直接的に値が可視化されていない(書かれていない)ものがないか確認させ、あれば図に書き込ませる。</p> |
| 関数 | <p>正答率は、市平均を10.2ポイント下回った。</p> <p>○「具体的な事象について、yがxに反比例することをもとに、その式を立式することができること」の設問の正答率は、全国平均より15.9ポイント高かった。</p> <p>●「比例の関係について理解していること」「1組のx、yの値から、関数y=ax²の式を立式することができること」についての設問の正答率は、市と比べて大きく下回った。</p> | <p>・比例と関数y=ax²は、xとyの片方が決まれば、もう片方が必ず決まるという共通点もあるが、比例と関数y=ax²の違いを、再確認する。比例においてxが2倍、3倍になると、yも2倍、3倍になるグラフは直線となり、関数y=ax²においてxが2倍、3倍になると、yは4倍、9倍になるグラフは放物線となることを再確認させる。</p> |
| データの活用 | <p>正答率は、市平均を5.4ポイント下回った。</p> <p>○「箱ひげ図から、示された主張ができる理由を説明することができる」の設問では、市平均より1.4ポイント高かった。</p> <p>●「5人の中から2人の代表を選ぶときの確率をもとめることができる」ことでは、市平均より8.7ポイント下回った。</p> | <p>・代表値、箱ひげ図、相対度数など、データの活用に関する用語の意味を理解できるように繰り返し指導するとともに、基礎的な知識・技能の定着を図る。</p> <p>・コインやサイコロを用いた基礎的な確率の問題を解けるように指導する。</p> <p>・問題文の状況を読み取り、適切な箱ひげ図やヒストグラムを選択する問題を解く際に、選択した理由を説明する表現力を身に付けられるように、指導を工夫していく。</p> |

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | エネルギー | 66.4 | 70.3 | 59.4 |
| | 粒子 | 55.9 | 61.1 | 56.4 |
| | 生命 | 65.2 | 67.9 | 62.7 |
| | 地球 | 65.5 | 69.1 | 65.6 |
| 観点別 | 知識・技能 | 66.0 | 67.9 | 63.8 |
| | 思考・判断・表現 | 59.9 | 65.7 | 57.6 |
| | | | | |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好的状況が見られるもの ●課題が見られるもの

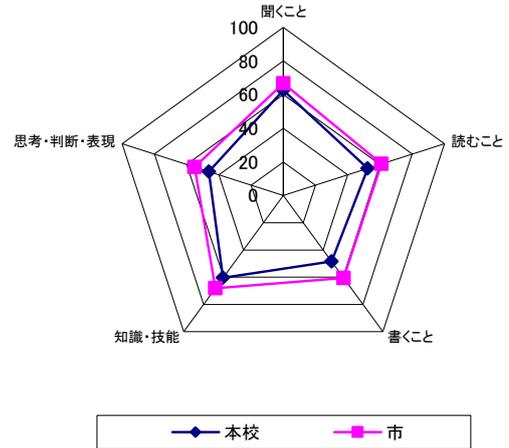
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|--|
| エネルギー | <p>正答率は、市平均を3.9ポイント下回った。</p> <p>○「電流の正体」の問題で、「静電気について理解している」、「粉末インクが帯電していない部分以外に付着しない理由を説明できる」についての設問では、市平均をそれぞれ1.6ポイント、3.5ポイント上回っている。</p> <p>●「仕事とエネルギー」の問題で、「位置エネルギーと運動エネルギーが移り変わる運動で、おもりの速さが最大になる点を指摘できる」、「力学的エネルギーの保存について理解し、おもりの正しい振り方を指摘できる」についての設問では、市平均をそれぞれ17.4ポイント、7.3ポイント下回っている。</p> | <p>・「実験で得られたデータをグラフ化する」「データから規則性を読み取る」「計算する」ことを苦手とする傾向があるので、グラフの書き方や読み取り方、計算方法をその都度指導し、演習問題を解くことで定着につなげていく。</p> <p>・実験や観察にともなう理科用語などの知識の定着を図るために、ノートやワーク、小テストでの振り返りをしっかりと行っていく。</p> <p>・静電気モデルを理解できる強みを活かし、目に見えないエネルギーの移り変わりをICT等で可視化する。特に力学的エネルギーの保存については、位置と運動のエネルギーをバーグラフ等で動的に対比させ、合計が変わらない(保存される)ことと、運動状態の変化(速さの最大値等)を関連付けて考察させる指導を重点化する。</p> |
| 粒子 | <p>正答率は、市平均5.2をポイント下回った。</p> <p>○「水溶液の性質」の問題で、「結晶が出てこなかった水溶液から結晶をとり出す方法を指摘できる」についての設問では、市平均を0.3ポイント上回っている。</p> <p>●「水溶液とイオン」の問題で、「塩について理解している」、「塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えていったときの、水素イオンの数の変化を指摘できる」についての設問では、市平均をそれぞれ9.0ポイント、15.0ポイント下回っている。</p> | <p>・実験後のまとめと考察の時間を十分にとるとともに、ワークシートを適切に使い、自分の力でまとめられるよう指導する。</p> <p>・「イオン・モデル図」による中和プロセスの可視化、グラフとモデルの往還による定量的思考の育成、イオンの個数変化を示すグラフと実際のビーカー内のモデル図を対応させる指導を行う。</p> <p>・「塩」の生成プロセスを再定義し、中和によって生じる陽イオンと陰イオンの組み合わせであることを、多様な酸・アルカリの組み合わせ実験を通して定着させる。</p> |
| 生命 | <p>正答率は、市平均を2.7ポイント下回った。</p> <p>○「植物のからだのつくりとはたらき」の問題で、「葉の表側にワセリンをぬった植物がどこで蒸散しているのかを指摘できる」についての設問では、市平均を1.4ポイント上回っている。「遺伝の規則性と遺伝子」の問題で、「子の代の種子の遺伝子の組み合わせを理解している」についての設問では、市平均を2.9ポイント上回っている。</p> <p>●植物のからだのつくりとはたらきの問題で、「葉の裏側のほうが表側より気孔の数が多くことを理解している」についての設問では、市平均を9.5ポイント下回っている。遺伝の規則性と遺伝子の問題で、「子の代の種子の遺伝子の組み合わせを理解している」についての設問では、「孫の代の種子の遺伝子の組み合わせを考察することができる」についての設問では、3.7ポイント下回っている。</p> | <p>・生物分野の単元においても、できる限り実験や観察を取り入れ、体験型の授業展開を重視する。また、観察が難しい内容では、視覚教材や一人一台端末を利用して生徒の理解・定着につなげる。</p> <p>・重要語句を正確に定着させるために、小テストや単元テスト、ワークブック、AIDリルなど、繰り返し学習するよう指導する。</p> <p>・気孔の分布のように「知識」として抜け落ちやすい項目については、顕微鏡による裏表の比較観察を再度重視し、自分の目で見た「実感」を伴う知識として定着させる。</p> <p>・遺伝の規則性については、「子の代」の結果を暗記するのではなく、減数分裂から受精に至る「遺伝子の組み合わせ(表)」を自ら作成し、孫の代、さらにその先の結果を論理的に導き出せる「数学的思考」を強化する。</p> |
| 地球 | <p>正答率は、市平均を3.6ポイント下回った。</p> <p>○地震の問題で、「初期微動を理解している」についての設問では、市平均を5.9ポイント上回っている。気象の観測の問題で、「気圧について理解している」についての設問では、市平均を1.8ポイント上回っている。</p> <p>●気象の観測の問題で、「等圧線について理解している」、「低気圧とそのまわりの大気の流れを指摘できる」についての設問では、市平均をそれぞれ7.6ポイント、10.7ポイント下回っている。</p> | <p>・教科書の図や写真、NHK教材を活用したり、岩石鉱物など実物を観察するなど身近で分かりやすい教材を利用し理解させる。</p> <p>・本時の学習内容や重要語句は、振り返りの時間に必ず確認させたり、できるだけ多くの生徒を指名し、一人一人の学習内容の定着を確認する。</p> <p>・低気圧や高気圧のまわりで風がどのように吹くのか、ICTを活用したシミュレーションや動画教材を用い、反時計回りの吹き込みなどを動的に視覚化して理解させる。</p> <p>・与えられた気圧データをもとに、自分で等圧線を引く作図活動を取り入れる。線が混んでいる場所ほど風が強いといった、図の性質と物理現象をリンクさせる実習を強化する。</p> <p>・線香の煙などを用いた空気の対流実験を行い、上昇気流と雲の発生、それに伴う周りからの空気の流入をセットで捉えさせ、「自分事」として地域の天気図と結びつけて考察させる。</p> |

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 聞くこと | 62.6 | 66.8 | 61.5 |
| | 読むこと | 52.4 | 60.9 | 55.5 |
| | 書くこと | 48.4 | 60.5 | 50.9 |
| 観点別 | 知識・技能 | 60.4 | 68.1 | 64.1 |
| | 思考・判断・表現 | 46.2 | 55.0 | 45.2 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|------|---|---|
| 聞くこと | <p>○まとまりのある英文を聞いて内容を把握する問題では、学校正答率は市平均と大きな差は見られず、基本的な聞き取りの力は一定程度身に付いている。</p> <p>○単語や短い表現を聞き取る問題では比較的安定した正答率を示しており、音声情報を捉える基礎的な力は概ね定着している。</p> <p>●領域全体の学校正答率は 62.6% で、市平均 66.8% を下回っており、改善の余地が見られる。</p> <p>●特に、対話の流れを踏まえて適切に応答する問題では市平均との差が見られ、話の意図や要点を捉える力に課題が残っている。</p> | <p>・聞き取った語句をつなげ、話者の意図や要点を捉える力の育成を重視する。</p> <p>・授業では、聞く前に場面や目的を確認し、何を聞き取る必要があるのかを明確にした上で音声に触れさせる活動を充実させる。</p> <p>・スクリプトを用いて内容を振り返り、判断の根拠となる表現を確認することで、部分理解から全体理解へと導く。</p> <p>・ペアでの簡単なやり取りを通して、聞いた内容に即応する経験を積ませ、実際のコミュニケーションにつながる聞く力の定着を図る。</p> |
| 読むこと | <p>●「読むこと」領域の学校正答率は 52.4% で、市平均 60.9% を下回り、読解力の定着に課題が見られる。</p> <p>●特に、文章全体を通して内容を判断したり、設問の根拠を本文中から読み取ったりする問題では正答率が低く、断片的な理解にとどまる傾向が見られる。</p> <p>○短い英文から必要な情報を探し出す問題では市平均との差が比較的小さく、部分的な内容理解は一定程度できている。</p> <p>○設問が明確な場合には本文に戻って答えを探す姿勢が見られ、基本的な読み取りの力は身に付きつつある。</p> | <p>・文章全体の構成を意識しながら読む力の育成を図る。段落ごとに要点を整理し、「何について書かれているか」を捉える活動を継続的にやりたい。</p> <p>・設問を先に確認し、答えの根拠となる表現を本文中から探す読み方を指導することで、目的意識をもった読解につなげる。</p> <p>・未知語があっても前後の文脈から意味を推測する経験を積ませ、語彙不足による理解の停滞を防ぐ。</p> <p>・英文を訳すことに偏らず、情報を整理しながら読む力を高め、読解の質的向上を目指す。</p> |
| 書くこと | <p>●「書くこと」領域の学校正答率は 48.4% と低く、市平均 60.5% を大きく下回り、3領域の中で最も課題が顕著である。</p> <p>●条件に沿って自分の考えを書く英作文問題では正答率が低く、語順や時制、文のつながりに関する理解不足が影響している。</p> <p>○語句や基本的な文型を用いた記述では一定の正答が見られ、基礎的な表現力は部分的に定着している。</p> <p>○指示が具体的な場合には対応できており、書くことへの入口段階の力は育成されつつある。</p> | <p>・書く活動を段階的に設定し、正確さと内容の両立を図る指導を行う。まずは、基本文型や語順を確実に身に付けさせるとともに、モデル文を活用して英文構成の型を理解させたい。</p> <p>・形を理解した上で、理由や考えを一文付け加えるなど、無理のない発展的な表現活動を取り入れる。</p> <p>・書いた英文を読み返し、誤りに気付く活動を通して、文法事項の定着を図る。</p> <p>・書くことを「評価される活動」だけで終わらせず、「伝わった」という実感を積ませることで、表現力の向上につなげていく。</p> |

宇都宮市立宝木中学校
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|--------------------------|---|--|
| ◎「わかる授業」のより一層の推進 | (1)『分かる授業』の推進 ①「本時の目標(めあて、ねらい)」をつかむことのできる明確な指示 | 「学校の授業がどの程度分かりますか」について ●1年生 83.6%(市 82.9%、昨年度 79.4%) ●2年生 77.7%(市 79.3%、昨年度 70.2%) ●3年生 69.9%(市 80.0%、昨年度 69.2%) |
| | ②話し合い活動の積極的な導入 | 「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」について ○1年生 78.2%(市 80.2%、昨年度 85.5%) ●2年生 84.3%(市 82.8%、昨年度 73.4%) ●3年生 78.9%(市 84.7%、昨年度 79.8%) |
| | ③「ふりかえり」活動の徹底 | 「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」について ●1年生 78.2%(市 74.2%、昨年度 69.5%) ●2年生 59.5%(市 73.2%、昨年度 49.2%) ●3年生 63.4%(市 71.4%、昨年度 66.3%) |
| ◎家庭学習ノートの活用など、家庭学習の一層の充実 | (2)家庭学習の習慣化 | 「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」について ○1年生 52.7%(市 37.1%、昨年度 45.8%) ●2年生 33.9%(市 33.8%、昨年度 25.8%) ○3年生 31.7%(市 37.3%、昨年度 40.4%) |
| | | 「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」について ●1年生 61.8%(市 55.6%、昨年度 48.9%) ●2年生 43.0%(市 54.3%、昨年度 43.5%) ●3年生 52.8%(市 63.9%、昨年度 58.7%) |
| | | 「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」について ○1年生 64.5%(市 70.2%、昨年度 63.4%) ●2年生 53.7%(市 67.2%、昨年度 58.1%) ●3年生 63.4%(市 71.3%、昨年度 63.5%) |

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

| |
|---|
| <p>(1)『わかる授業』の一層の推進に向けて</p> <p>【今年度の分析】 ・1年生の授業理解度は高い(83.6%)ものの、学年が上がるにつれて低下し、特に3年生は市平均を大きく下回る(69.9%)傾向にあります。また、「振り返り活動」をノートにまとめる割合も2・3年生で課題が見られる。</p> <p>【次年度の重点方針】 ○「宇都宮モデル」の徹底と深化 ・単なる目標提示に留まらず、生徒が「何を学ぶか」を確実につかむ明確な指示(はっきり)と、思考を深める発問(じっくり)を全教科で実践する。 ○学年に応じた個別指導の充実 ・理解度が低下し始める2・3年生に対し、理解の状況に応じた「繰り返し指導」や「習熟度別のアプローチ」を取り入れ、基礎・基本の定着を徹底する。 ○アウトプット型「振り返り」の強化 ・「振り返り」を単なる感想で終わらせず、学んだ内容を自分の言葉で整理する時間を適切に設定し、思考過程を可視化させる指導を充実させる(すっきり)。 ○主体的な「学び合い」のコーディネート ・グループ活動において、教師が適切な「つなぎ役」となり、互いの考えを認め合いながら課題を解決する「対話的で深い学び」の場を創出する。</p> <p>(2) 家庭学習のより一層の充実に向け</p> <p>【今年度の分析】 「授業の復習をその日のうちに行う」生徒が1年生(52.7%)を除き、全体的に低い水準にある。特に「自分で計画を立てて取り組む」項目が市平均を下回っており、自律的な学習習慣の確立が必要である。</p> <p>【次年度の重点方針】 ○自学自習を支える「計画力」の育成 ・「家庭学習の手引き」を活用し、見通しを持った学習計画の立て方を具体的に指導する。特にテスト後の解き直しなど、PDCAサイクルを意識した事後指導を徹底する。 ○家庭・学校の連携による「学習環境」の整備 ・保護者会や三者懇談を通じ、家庭での学習状況や情報の共有を強化する。家庭での関心を高め、学校と家庭が一体となって生徒の学習習慣を支える体制を構築する。 ○「家庭学習ノート」の質の向上と承認 ・家庭学習ノートを単なる提出物とせず、その努力を認め励ます言葉かけ(承認の指導)を充実させ、生徒の粘り強い学習意欲を喚起させる。 ○復習ルーチンの確立 ・「その日のうちに復習する」ことの意義を全校で共有し、短時間でも毎日机に向かう習慣を定着させるための具体的な助言(予習・復習のポイント提示)を行う。</p> |
|---|